会　議　記　録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公開します。

会　　議　　名	令和３年度第１回高松市生涯学習センター等運営協議会
開　催　日　時	令和３年７月６日（火）午後１時３０分～午後２時４０分
開　催　場　所	高松市生涯学習センター２階　大研修室
議　　題	（１）令和２年度高松市生涯学習センター等の事業実績について （２）令和３年度高松市生涯学習センター等の事業計画について
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上　記　理　由	
出　席　委　員	７人
	田中委員（会長）、藤井委員（副会長）、上原委員、後藤委員、宇都宮委員、武岡委員、長尾委員
傍　　聴　　者	０人（定員５人）
担当課及び連絡先	生涯学習課　生涯学習センター　０８７－８１１－６２２２

会議の経過及び結果
≪次第≫ １　開会 ２　教育局長あいさつ ３　会長あいさつ ４　議事 （１）令和２年度高松市生涯学習センター等の事業実績について （２）令和３年度高松市生涯学習センター等の事業計画について ※　事務局より配付資料に基づき説明後、議事単位で協議・意見交換 ５　報告事項 令和２年度まなびＣＡＮアンケートの結果について ６　その他 ７　閉会 **≪協議の経過及び結果≫** 事務局から、議事（１）及び（２）について、説明を行った。 （委員） 高松市民大学・屋島カレッジについて、令和３年度をもって終了するという説明があったが、事業終了に至った経緯、今後、代替となる他の事業を実施していくのか、教えていただきたい。 （事務局） 高松市の財政保全プロジェクトとして２年前に、全庁的な見直しを行った中でこの事業については中止することが決定した。令和４年度以降は補助金を交付するという形での助成はでき

なくなるが、引き続き高松大学・高松短期大学と協力しながら、何らかの形で支援していきたいと考える。

（委員）

非常に内容の充実した講座だったため、財政難によるものは致し方ないが、事業の継続や終了は実績に基づいて、市が判断されたであろうから残念に思われる。今後、形を変えて復興できることを期待している。

（会長）

高松市民大学・屋島カレッジには講師として協力しているが、これを受講する市民はかなり熱心で、人気もあったので残念である。今後、高松大学・高松短期大学が主催するのならば、高松市のほうで、広報などのバックアップを行っていかなければならないと考える。広報は事業費がなくてもできるのではないか。

（事務局）

高松大学・高松短期大学と協議のうえで、広報など費用をかけなくてもできることは全面的に協力していきたい。

（副会長）

高松市民大学・屋島カレッジについて、担当者として、確かにいろいろな意見をいただいている。今年度については、事務局とも話し合って、開催していきたい。その結果も踏まえて、どのような形で事業を継続できるか検討しなければならないと考えている。こういった「市民大学」という事業は、全国的に実施されており、これを廃止するということであれば、まったく新しい文化を創造する必要があるのではないか。今後の事業形態については現時点では分からないが、事務局とも協議しながら、新しいものを創造していく、一つの画期と捉えている。

（委員）

コロナ禍でなかなか思うように講座を開催できない状況が続いていたが、他の市町村の生涯学習センターに類する施設の活動状況について、高松市と比較できる情報はあるか。

（事務局）

他の市町村の活動状況についてのデータは把握できていないが、全国的に見て香川県の感染状況は比較的落ち着いていたので、感染が拡大する都心部はもっと活動が厳しかったのではないかと想定される。

（委員）

参考までに、大学の講座の開催状況については、他の大学の方と話していると、香川大学は比較的多数の講座を開催できている。四国は割と実施できている大学が多かったということを紹介しておきたい。

（委員）

昨今、飲食店や大学の図書館の学習スペースにかなり人が集まっており、利用しづらい状況がある中で、若い年齢層へのアピールとして試行されている自主学習スペースは、学生にとってとてもありがたいであろう。この取り組みについて、学生を対象にどのようにＰＲしているか。

また、高松市生涯学習センターにおいて、学生と連携する事業等はあるのか。例えば、地域活性化のためにいろいろな活動をしている学生が、成果を生かせる環境づくりとして、学習成果発表の場事業で発表できれば、地域の人と一緒に考えることができる場が生まれるとともに、

利用率の向上も見込めるのではないかと考える。
（事務局）
　まず、自主学習スペースのＰＲについては、まだ周知が行き届いていないところもあるが、ＰＲするポスターを、高松市生涯学習センターの玄関、ことでん片原町駅のほか、現在、多くの市民が自主学習に利用している瓦町フラッグにも人目につくように掲示している。７月２日放送の情報番組「ｅｖｅｒｙ．フライデー」でもＰＲを行った。今後、高松市ホームページ内の生涯学習センターのページで周知を行う予定である。（７月７日ホームページ更新済み）香川大学は、生涯学習センターから少し距離があるが、ぜひポスター等による周知に協力していただきたい。片原町駅の利用者や商店街を通る方々に、①午後１０時まで利用できる、②Wi-Fiが使用できる、③冷房が効いており快適に過ごせる、という利便性を知っていただき、生涯学習センターの利用率向上につなげたい。
　次に、学生と連携する事業については、現状として実績はないが、今後、実施していきたいと考えているので、御協力いただきたい。
（委員）
　生涯学習センターをＰＲできるように努めたい。

事務局から、報告事項について、説明を行った。

（会長）
　受講者が講座情報を得ている広報媒体は「広報高松」が一段と多い。「広報高松」は、令和２年度から発行回数が減ったため、情報が届かなくなることを危ぶんでいたが、その点について事務局はどう捉えているか。
（事務局）
　「広報高松」は月１回の発行になって以来、少しページ数が増えており、生涯学習センターの講座については、現在まで、基本的にすべての講座を掲載できており、特に支障はない。しかし、今後、誌面の関係で掲載できなくなることもありうる。
　広報についての工夫として、６月号からは、講座の募集開始日を掲載するようにしたほか、生涯学習センターに関する掲載部分にはマナビィ（生涯学習のマスコット）を入れることで、一目で生涯学習センターの事業を印象付け、探しやすくすることでアピールしていこうと考えている。
（会長）
　広報は発行回数が月１回になるとともに全戸配布に変わったようだが、これは非常に集客効果につながっていると考える。せっかく良い企画しても市民に知ってもらえないと参加してもらえないので、広報主体ということで力を入れていただきたい。
（委員）
　広報手段についてラジオという項目もありますが、ラジオ局への情報の提供方法等について教えていただきたい。
（事務局）
　報道関係に、講座等のデータをメールで提供し、取り上げていただけるようお願いしている。
（委員）

かつて高松市有線放送電話協会の有線放送の番組では、高松市のいろんな出来事を取り上げており、その中に「コミセンだより」というコーナーもあり、「〇〇地区ではこういうことをやっています」と紹介していた。家にいる方はよく聞いているので、こういった地域の情報を、インターネットだけではなく、ラジオで一つの番組みたいに流せたら、生涯学習センターのことをもっと知ってもらえるのではないか。

（事務局）

高松市の市政情報については、FM 高松で番組枠を設けており、広報に掲載されているイベントなどを職員が選んで原稿を作り、ラジオで流している。この中で、生涯学習センターの講座なども紹介しているので、今後も引き続き紹介していただく。

（委員）

商店街の中に生涯学習センターがあるというのは非常に珍しい。例えば、倉敷市でも商店街の中に観光案内も兼ねた施設があり、１階の気軽に休憩できるスペースにはコミュニティの講座やいろいろな倉敷の情報を貼っている。高松市生涯学習センターも、商店街の中という好立地を活かして、商店街を巻き込んだ事業ができないか。現在もお茶と和菓子の講座、紅茶の講座など商店街の協力で開催している講座があるが、より一層商店街とのつながりをアピールしていただき、倉敷市のような市民の交流の場ができたらいいと考える。

（事務局）

連携講座に加え、商店街の横断歩道の手前の大きな商店街所有の看板を、まなびかんづめ（生涯学習センターの機関誌）の掲示板として無料で利用させていただいていることも、商店街との連携の一環と捉えている。

今後においても、今まで以上に商店街と協力し、生涯学習センターを活性化していきたい。

（会長）

アンケートを取る意味についてよく考えて、結果を役立てていただきたい。コロナ禍で取り組み件数が減っている今、分析に力を入れることで、組織としての力を高めていくべきだと思う。この時期に改善点を見つめて、方策を考え、それを日常の業務が戻ってきたときに活用できるようにしていただきたい。